

富士市中小企業景況調査結果

令和3年度 第4四半期【令和4年1月～3月】

令和4年4月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、201事業所(回収率68.1%)を対象に、「令和4年1月～3月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和3年10月～12月 今期…令和4年1月～3月 来期…令和4年4月～6月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲24.7	→	▲27.8 (▲48.2)	→	▲26.2
売上	▲13.0	→	▲12.7 (▲43.7)	→	▲9.8
採算	▲25.4	↘	▲33.6 (▲36.1)	→	▲31.3

今期調査では、全産業合計の業況DIが3.1ポイントの悪化、売上DIが0.3ポイントの改善、採算DIが8.2ポイントの悪化となった。来期の予測について業況DI、売上DI、採算DIのいずれも横ばいの見込みとなった。業種別の来期業況DIは、サービス業は上昇。建設業、卸売業は横ばい。製造業、小売業は下降を予測。売上高DIは、製造業、サービス業は上昇。建設業、卸売業、小売業は下降を予測。採算DIは、サービス業は上昇。製造業、卸売業は横ばい。建設業、小売業は下降を予測している。

全体を通して、一向に回復の兆しが見えないコロナ不況への不安に加え、原油高騰などによる様々な商品の値上げ、またロシアのウクライナ侵攻による影響を不安視する声が多かった。半導体不足は、改善にはまだ大分時間を要するであろうというコメントもあった。

経営上の問題点では、製造業・卸売業・小売業では「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、建設業では「人材不足」、サービス業では「売上減に伴う利益減」が、それぞれ1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業、卸売業、小売業は上昇。建設業、サービス業は下降。

来期は、サービス業は上昇。建設業、卸売業は横ばい。製造業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲23.5	↗	▲17.3 (▲48.5)	↘	▲23.4
建設業	▲24.2	↘	▲35.7 (▲31.0)	→	▲39.3
卸売業	▲12.0	↗	▲4.1 (▲52.2)	→	▲8.3
小売業	▲47.6	↗	▲26.1 (▲54.5)	↘	▲39.1
サービス業	▲20.7	↘	▲51.8 (▲57.7)	↗	▲20.7
全産業	▲24.7	→	▲27.8 (▲48.2)	→	▲26.2

〔売上高のDI〕 製造業、建設業、小売業は上昇。卸売業、サービス業は下降。

来期は、製造業、サービス業は上昇。建設業、卸売業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲17.6	↗	0.0 (▲53.0)	↗	10.0
建設業	▲24.1	↗	▲17.9 (▲46.7)	↘	▲28.6
卸売業	12.0	↘	4.1 (▲37.5)	↘	▲8.4
小売業	▲38.1	↗	4.4 (▲50.0)	↘	▲13.0
サービス業	0.0	↘	▲48.3 (▲28.0)	↗	▲10.3
全産業	▲13.0	→	▲12.7 (▲43.7)	→	▲9.8

〔採算のDI〕 製造業、小売業は上昇。建設業、卸売業は横ばい。サービス業は下降。

来期は、サービス業は上昇。製造業、卸売業は横ばい。建設業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲47.0	↗	▲36.6 (▲40.0)	→	▲33.3
建設業	▲27.6	→	▲32.1 (▲13.3)	↘	▲50.0
卸売業	▲8.0	→	▲12.5 (▲33.3)	→	▲8.4
小売業	▲33.4	↗	▲21.7 (▲59.1)	↘	▲39.1
サービス業	▲6.9	↘	▲58.7 (▲40.0)	↗	▲24.2
全産業	▲25.4	↘	▲33.6 (▲36.1)	→	▲31.3

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…総じてコロナに加え原材料価格等の上昇に関するコメントが多かった。「コロナ禍により一進一退。エネルギー、原材料コストの上昇を非常に懸念している」「オミクロン株、コロナ感染者数の増加、ロシアのウクライナ侵攻の影響など、様々な要因が重なり燃料を始め物価が高騰している。売上は伸びず深刻な状況である。製品に価格転嫁せざるを得ないが、何十年もトイレットペーパーの値上げはしておらず、今回は踏ん張る時だと思っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ロシアのウクライナ侵攻によりあらゆる事が不透明である」「ロシアのウクライナ侵攻、コロナ、物価上昇など当面は景気回復の期待はできない」とのコメントが寄せられた。

『紙加工』…総じて諸経費の高騰を不安視する声が多かった。「売上は昨年を若干上回っているが、コロナ禍が続く限り回復は見通せない。加工賃の値上げ交渉が難航しており、経費の増加をカバーできない。」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「燃料、原材料の値上げが2月から続いている。昨年比30%以上値上げしてきているものもあり、利益を大幅に圧迫している。今後も、この状況がしばらく続くと思われる」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて半導体不足や自動車の減産に関するコメントが多かった。「自動車部品については半導体不足や新型コロナウイルスの感染再拡大により部品調達が困難となり、自動車メーカーの減産計画が続いている」「自動車関連は、受注の増減幅が大きくなっている為、売上計画が難しい状況である。工作機械部品等については順調に推移していると思われる」「取引先が、半導体等の部品不足により、組立仕掛品が過剰となり、完成品が出来ていない。その為、生産を減少せざるを得ない状況になっている」「材料の値上げが止まらない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原油高騰により原材料価格の値上げ要請が多い。電気ガス等の値上げもあり、多少の売上増では利益を出すのが困難となってきている」「部品の調達がスムーズに進めば、生産量は増えていくだろう」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…総じて部品調達の遅れ、自動車の減産に関するコメントが多かった。「原材料の値上げ等で業界全体を通して明るい兆しは無い」「トヨタ自動車関連の仕事は順調だが、他社関連の減少幅が大きく補えていない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「8月まではある程度仕事量の見込みがあるが、受注できるかは不透明である」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じて自動車の減産に関するコメントが多かった。「半導体などの部品供給不足によるトラック生産工場の稼働率低下が続いた。生産再開の連絡も受けていたものの、日野自動車の不正発覚により改めて今後半年間は生産台数が半減すると連絡を受けた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「詳しい生産台数や生産計画が出来ていない為に予定が立てられず、休業も考えている。」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…総じてロシアのウクライナ侵攻の影響に関するコメントが多かった。「ロシアのウクライナ侵攻の影響により、原材料価格の高騰、需要の減少が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ロシアのウクライナ侵攻の影響による原材料価格の高騰が不安である」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材・印刷関連』…総じて今後の見通しは立たないとの声が多かった。「1月～3月はコロナ感染者の減少ペースが鈍化した上、ロシアのウクライナ侵攻もあり、例年よりも厳しい」「新型コロナ以降の需要は徐々に回復してきているが、完全に回復するにはまだ時間が掛かる見通し」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナの感染

状況、ロシア・ウクライナ情勢次第で、景況は変動する」「新疆ウイグル自治区の問題により世界的に綿在庫が急激に減少した為、NY 綿花相場の高騰による原糸の大幅な値上げが起きている。その他の資材等も値上げがあり、価格転嫁が厳しい状況。また、ロシアのウクライナ侵攻の影響が今後の不安材料である」とのコメントが寄せられた。

『**食品**』…総じて各商品の値上げに関するコメントが多かった。「コロナ前と現在の売上は販売チャネル別で次の通りである。土産物店は 100%下落、コンビニは 30%ほど下落。スーパー、ドラッグストア、ディスカウントストアでは 3~10%ほど上昇。EC サイトでは 30%程上昇した。コロナの影響はまだ続いていると実感している」「何もかも価格高騰が続く中、販売価格への転嫁は困難で、非常に厳しい状況である。零細企業では打開不可能。業界、組合を通じて国への働きかけを始めている。制度改革、法整備なしには、取引関係のパワーバランス崩壊、バイイングパワーの強靱化には太刀打ちできない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当面は今の停滞状況が続くと思われる」「地方経済、食文化の保全の為に行政のバックアップは必要であると思う」「コロナの感染状況とロシアのウクライナ侵攻で、先の見通しは立たない」とのコメントが寄せられた。

『**飲料**』…「富士市がほうじ茶で地域を巻き込んで動き始めてきたので、ほうじ茶事業も少しは活性化すると思われる」「飲食店や企業向けに富士のほうじ茶の PR、コラボ等を会議所からも勧めてほしい」とのコメントがあった。

『**機械器具**』…「部品の納品遅延による生産減が続いている」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「富士市全体でほうじ茶を盛り上げるために、飲食店への協力を会議所にもお願いしたい」「新型コロナもまだ落ちつかないうちに、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、今後どのような影響が出るか不安である」

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業況	10.3	62.1	27.6	▲17.3	下 降
売上高	33.3	33.3	33.3	0.0	上 昇
採算	6.7	50.0	43.3	▲36.6	横ばい

【建設業】 景気ムード…【厳しい状況】

『**総合建設**』…総じて民間の設備投資減少による競争激化とウクライナ情勢の影響に関するコメントが多かった。「過当競争が続いている。仕入れ価格が上昇していることを顧客は理解するものの、いざ契約段階になると価格は前年並みでないと締結には至らない傾向にある」「市場の投資意欲が先延ばしになっている様子」「公共工事について、引き続き順調に発注がある。民間工事は、大手の地方進出による少ない工事案件の取り合いと価格競争により、地方の中小建設業は圧迫されている」「公共工事は、国の案件は多いが、県・市は少なく額も小さい」「民間工事は減少傾向」「製造業の設備投資の鈍化による受注減の傾向あり。コロナ、ロシアのウクライナ侵攻による景気の不透明感もあり、受注減少が予想される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「資材等の物価上昇に加え、働き方改革や賃金アップにも取り組まなければならない。価格転嫁が受け容れられないと、今後とも厳しい状況が続くと思われる」「コロナに加え、ロシアのウクライナ侵攻がどのように影響してくるのかが不透明であり、市場の投資意欲の更なる減少が危惧される」「ロシアのウクライナ侵攻により国際経済の不安要素が増大し、企業の設備投資はさらに縮小方向に流れるだろう」とのコメントが寄せられた。

『**一般住宅**』…総じて建築資材や諸経費の高騰に関するコメントが多かった。「建築資材や設備機器の在庫不足と値上げが続いている」「11月で終了予定であった住宅ローン減税制度が、減税率を見直して再延長となった為、住宅需要の急激な落ち込みは回避できるだろう。

昨年 10 月にかけて駆け込み特需があったため、今期はその反動減はあるだろう。」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料価格等の値上げ、コロナ、ウクライナ情勢が終息しないと今後の見通しは全く立たない」「住宅新築において、若い世代には市中心部より郊外分譲地の方が好まれる傾向がある。農地の宅地化が加速し、高齢者世帯の空き家が増加している。高齢者でも安全に移動ができるよう、自動運転の開発普及が進むことが望まれる。免許返納後の買い物難民が多い。通販もいいが、自分で商品を見て選ぶのは高齢者のストレス発散にもつながる。富士市のコンパクトシティ化は難しいが、買い物難民を救う制度が必要だと思われる」とのコメントが寄せられた。

『建設関連』…総じて投資の減少傾向による需要減少とウクライナ情勢に関するコメントが多かった。「相変わらず公共工事が少なく受注金額も低入札が続いている。石油や鉄など様々なものの価格が高騰しているので経営は厳しくなっている」「経済低迷の為、建設資材の需要が減少している。販売量に合わせた生産調整、在庫調整を凶っている」「産業廃棄物の処分量は全体的に減少傾向にある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ロシアのウクライナ侵攻により全く見通せない」「人件費や諸物価高騰の為、本年 4 月より製品価格の値上げを実行する予定である」「光熱費、燃料費の上昇による収益の圧迫が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…総じて物価上昇と競争激化に関するコメントが多かった。「受注減少と業者間での価格競争が深刻となっている」「原材料費、エネルギー費、資材費、物流費などの上昇で厳しい経営状況である。食料品などの販売価格の値上げラッシュも続いている。弊社も値上げせざるを得ない状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「新型コロナウイルスの影響により見通しが立たない」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「造園工事の発注が少なく、雑木伐採やナラ枯れの発注がある。木が大きい為、作業が大変である」「芝生、剪定など需要は例年並みである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「業者間の過当競争が続く」「個人住宅については建売分譲が多く、植栽の減少傾向がみられる」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…総じて材料等の納品遅れによる工期遅延に関するコメントが多かった。「ますます過当競争になるだろう」「過当競争に加え、機械及び材料の納期遅延で工期延長となり、採算が合わず利益減となる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「売上減少による資金圧迫で見通しは厳しい」「しばらくは売上減、利益減が続くであろう。過当競争も避けられない」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「コロナ第 7 波などと言われているが、もう次が来たら本当に苦しい」「富士駅前が開発事業の遅れが生じれば、富士市の発展は無いだろう」「富士土木事務所による間門町内の急傾斜地の 1 期工事が終了し、続いて 2 期工事が始まった。早期拡幅に期待したい」「最近、都市の再構築などの話題がプレスリリースされており、富士市ばかりでなく他の市町の再開発計画が見られるので、地域の活性化につながることを期待される」「電子帳簿保存法やインボイス制度に伴うデジタル化により事務処理業務の見直しが急務である」「工場の設備投資が減少傾向である」「新富士駅と富士駅との利便性を改善しないと今後の富士市の発展は期待できない。早急に対策を再考していただくことを希望する」「コロナ融資の返済が始まる。このままだと雇用を守れるか心配である」「いつも景況調査の報告を見て、市内の問題を興味深く読んでいます。前回（令和 3 年度第 3 四半期景況調査報告）の中に記載があった「KADODE（島田市）」について、富士市は是非検討していただきたい。年末に訪問してみたが、島田金谷インターチェンジに近く、トーマス号も見学できる。他地域にない食材、土産が充実し、フードコートや駐車場も広く快適であった。近くにある「サングラム」というレストランも非常に良かった」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	3.6	57.1	39.3	▲35.7	横ばい
売上高	10.7	60.7	28.6	▲17.9	下降
採算	3.6	60.7	35.7	▲32.1	下降

【卸売業】 景気ムード…【低調】

『機械器具』…総じて仕入れ値高騰と部品不足による納期遅れに関するコメントが多かった。「電気部品だけでなく全ての製品に納期遅延が発生している。納期が1年以上の製品や納期回答ができないと言われるケースも多々ある」「納期問題に加えて、各メーカーより仕入価格の変更(上昇)の案内が、ほぼ毎日来る」「ロシアのウクライナ侵攻により、今後は鋼材の価格上昇が心配である」「製造業にとって厳しい状況が続くと思うが、需要は落ちていない」とのコメントがあり、不安視する声と静観する声で二分された。今後の見通しについては「外的要因(コロナや戦争)により変化する可能性は大いにあり、我々がコントロールできない事なので耐えるしかない」「受注残や引き合いはある程度ある為、大きな落ち込みはないと見込んでいる」「ロシア、ウクライナの戦争がどうなるかによって変化するだろう」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「売上、利益ともに対前年比で5%程落ち込んでいるが、業界全体としては前年並みである」「半導体の供給が改善されれば自動車の生産台数は戻るだろう。そうなれば新車の売上が増え、中古車市場も正常化するだろう」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…総じて資材価格の高騰に関するコメントが多かった。「前期に比べ大型工事による資材の受注が少ない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「見積件数は増えているが、仕入原価の上昇率がかつてないほど高くなっている。実際の工期を考え、十分な価格検討が必要になるだろう」「前期はコロナにより流通停滞、ロックダウンによる工場停止でウッドショックになったが、ロシアのウクライナ侵攻により、ロシア産の木材、ヨーロッパ産の木材が今後入荷しなくなり、前期のウッドショックよりも酷い状況が予想される」とのコメントが寄せられた。

『紙』…総じて物価高騰に関するコメントが多かった。「石油製品の値上がりにより仕入価格が上昇している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「紙の値上げが始まっている中、コロナ感染症の終息も不透明な上、ロシアのウクライナ侵攻の影響による物価高騰で消費低迷が懸念される」「長引くコロナの影響で業態が様変わりし、コロナ以前よりネットでの集客が増えた。BtoB取引よりBtoC取引が増えた。コロナが完全に終息すればイベント事が再開され広告宣伝の需要は増える」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…総じて古紙の減少に関するコメントが多かった。「テレワークによりオフィス関連の古紙が大幅に減少し売上減。オミクロン、ロシアのウクライナ侵攻問題など不安材料が重なり、業界全体が低迷状態である」「3回目のワクチン接種によりコロナも少しは落ちついてきているものの、業務用トイレットペーパー等は思わしくない。少しでも人の動きが変わってくれば、改善していくのではないかと期待している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「冷静に物事を捉えて、今やるべきこと、資金繰り、現業態の見直しなどを踏まえ、新ビジネスへの挑戦に取り掛かる時期に来たのかもしれない。価格修正だけでは、これからは益々厳しくなっていく」「産業古紙が減少し、輸出も先が見通せない。メーカーの減産でこの先はとても難しい」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…総じて銅、アルミ、鉄などの高騰に関するコメントが多かった。

「ウクライナ情勢の緊迫化で銅、アルミが先物で最高値を更新。自動車メーカーの減産、建物解体の減少で、鉄スクラップも高値で推移している」「鉄鋼製品価格の上昇により、材料であるスクラップも上昇してきたが、頭打ち状態になりつつある」「貴金属回収関連は高

い水準を推移しているため、世界情勢とともに注視が必要」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ウクライナ情勢、円安、原油高、諸物価の高騰、半導体不足が各産業に及ぶので、見通しが立たない」「海外、特に中国を中心とした鉄需要、冬季五輪後の動きに注視している」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…総じてコロナとウクライナ情勢に関するコメントが多かった。「家庭紙の供給過多による生産調整が危惧される」「どの業界も同じだと思われるが、国際情勢が様々な形で影響を及ぼす為、物価上昇が避けられず、厳しい状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「仕入価格の高騰がいつまで続くか予測不能」「全く先行きが読めない。日々値上げに追われている状況で、湾岸戦争時よりも数段大変な状態である」「ロシアのウクライナ侵攻の影響により、化学品全般の更なる価格上昇が予想される」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「食品全般が高騰し、飲食店の低迷も相まって、食料品卸は非常に厳しい状況が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナが終息すれば飲食店が活気を取り戻し、回復する可能性を見込んでいる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「都市計画は完璧に進めようとするから、何年たっても結果が見えないのではと感じている。ゴーストタウン化が進み、地価の評価は下がり、資産価値が落ち込み、産業が停滞するという悪循環に陥っている」「4月から様々なものの値上げで、この先は不安ばかりである」「無利子融資から3年が経過し、これからが本当の勝負である。気を引き締めていきたい」「ネッツステージ、ビッグモーターなどの大手の車検センターが進出してきたが、その交換部品の購入は浜松の業者が引き受ける為、当地区の供給業者としてはマイナスである」「富士市に外資系、大型ショッピングセンターの誘致を希望する。観光、物流、地場産業の発展を期待する」「非鉄スクラップが高騰し、特に銅くずは1トン100万円以上と高く、盗難被害も増加している」「自転車レースの富士クリテリウムチャンピオンシップが非常に楽しみである」「久しぶりにイオン富士南へ行ったが、テナント閉店などで活気がなく驚いた。ショッピングモール自体がなくなるのではないかとこの噂もある。富士宮イオンの方はますます盛況の感があり、富士から富士宮に人の流れができてしまっているように思う。富士駅周辺の再開発が魅力的なものとなり、富士本町を巻き込んで人の流れが戻ることを願っている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	29.2	37.5	33.3	▲4.1	横ばい
売上高	33.3	37.5	29.2	4.1	下 降
採 算	20.8	45.8	33.3	▲12.5	横ばい

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…総じて原材料価格等のコスト増や値上げによる影響に関するコメントが多かった。「原材料価格の高騰により利益が圧迫されている。1月は売上も上がったが2月はまん延防止等重点措置による影響で売上は下がった。3月1日より価格を5%ほど値上げしたが、計画時よりも材料価格の上昇幅が大きく、カバーできるか見極めている段階である」「価格競争が激しく、利益確保が難しい。消費量も年々減少してきている」「原材料価格の高騰で大変である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナの影響が大きく、この先も変わらないと予想される。回復すれば生産販売需要ともに増加」「人流が回復すれば、景気も上向きになっていくであろう」「値上げによる買い控えが生じるか不安ではある。様々な物価が上昇していることから、消費者心理の様子を注視している。

コロナの第7波も心配である」「自店に関連業種の商品を投入し、売上、利益の確保に努めたい」とのコメントが寄せられた。

『**衣料品・呉服**』…「コロナにより益々人の流れが減り、全て下落に向かっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「少子高齢化社会がさらに進む事で、益々景況は悪化するだろう」「祭等のイベントも中止が多く盛り上がらない」とのコメントが寄せられた。

『**生花**』…「生産者不足と農協の生産指導により高値安定で推移しており、販売店の利益につながらない。世界情勢とコロナの影響で空輸品が届かない。これらの理由で慢性的な花不足が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナウイルスが落ち着かない限り現状を乗り越えられずに閉めるお店も増える予想」とのコメントが寄せられた。

『**日用品・雑貨**』…総じて仕入価格の高騰に関するコメントという声が多かった。「まん延防止等重点措置の影響を大きく受け売上減少が続いている。世間では飲食業だけ影響を受けるように思っているが、それ以外にも売上減少している業種があることを知ってほしい」「アルミ、金属の値上げ。大手鍋メーカーは2~3月に10~20%値上げした。鍋、フライパン等は4月より値上げせざるを得ない状況である」「木製玩具の値上げが大きい。10年程前より2倍近く値上げしている商品もある。元々木製玩具は手作り品のため高価な物ではあったが、もはや富裕層にしか買えない商品となってしまったように思う」「長期に渡るコロナの影響でイベント、特に冠婚葬祭の縮小によって、装飾品の需要が大幅に減少してしまった。メーカー、小売店ともに廃業するところが目立つようになってきた。消費者も外出が減り、身なりに気を使う事が減少した」「通勤・外食・旅行・イベントなどの外出機会の減少により、化粧品需要は低迷している」「コロナ禍による需要の低迷は、まん延防止等重点措置が解除されても元に戻るまでに相当の時間を要すると思う。元通りの受給関係には戻らないならば、どのような手立てがあるのか指導願いたいと思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「アルミの原材料であるボーキサイトの世界第二の産出国はロシアだが、ウクライナ情勢により、ロシアからの輸入が止まる可能性もあり、更なる値上げを予想」「プラモデル・ブロック玩具の通販が好調」「ここ数年何もできていなかったが、今年度は店頭看板のリニューアル・陳列什器の入れ替え等の設備投資を予定している」「以前のような需要は見込めない。地道に回復するのを期待するしかない」「コロナ終息後の反動需要を期待。7月には新店舗のオープンを予定しているのでそれまでにコロナが終息してくれることを願う」とのコメントが寄せられた。

『**家電**』…「相変わらず海外生産の製品入荷が遅れている。電話機やテレビが品薄である」「商品が海外生産のものが多く、商談がまとまっても思うように取引が出来ない。コロナが早く終息することを願う」とのコメントが寄せられた。

『**自転車**』…「業界全体として春は需要が高まる季節なので忙しい。価格高騰が続いており、消費者の買い控えを懸念している。今後も在庫不足、価格高騰が続くと予想」とのコメントが寄せられた。

『**自動車・部品**』…「新車の減産による中古車不足も、整備工場に影響が出ている。コロナ禍に加え、原油高騰による仕入部品の値上げ、ロシアのウクライナ侵攻の影響等、今後の見通しは不透明」とのコメントが寄せられた。

『**医薬品**』…「後発医薬品の供給は不安定な状況が続いている。4月より調剤報酬改定、薬価改正が控えており、売上減少を見込んでいる」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「吉原商店街で行っている“観るは法楽”が大好評である。市内50人程の作家たちが商店街の個店及び空き店舗にて作品を展示。空き店舗対策事業により開業したアトリエテチの小川さんが企画した。テレビ等のマスコミ取材や市外からの訪問者も多い。商店街で買い物してくれる方も多く、商店街を周遊するのにちょうど良い間隔で展示されている」「商店街への新規出店が続いていて、さらにスルガ銀行跡地にマンションができ

るといふ事なので今後が楽しみになってきた」「コンサル事務所グースとは早速コンサル契約を結ばせていただいた。新たな販路を築き今後につなげたい」「イオン富士南からのテナント流出に歯止めがかからない状況。新富士駅以南の商業の衰退が懸念される。中長期的に見て、県東部地区においては富士市の商業空洞化が現実味を帯びてきた」「外出を必要最小限にとどめる生活様式によって、商店街の困窮が続くと思われる」「富士市のサイクルロードレースの盛況を期待する」「ロシアのウクライナ侵攻の影響次第ではあるが、更なる物価上昇が心配である」「M&A が盛んになっている」「コロナ禍で地域のイベント中止が続いている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	17.4	39.1	43.5	▲26.1	下 降
売上高	34.8	34.8	30.4	4.4	下 降
採 算	17.4	43.5	39.1	▲21.7	下 降

【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…総じて緩やかではあるが客足は安定傾向との声が多かった。「イベントも開催し始め、まん延防止等重点措置の最中も、ランチタイム等短縮要請以外の時間帯の販売は少しずつ回復を感じている」「原材料が軒並み値上げで、利益が減るのを懸念している」「まん延防止等重点措置の期限が3月21日まで延長された事により、期待した春先のお客様の動向が鈍ることが懸念される」「ロシアのウクライナ侵攻による社会情勢の急変で、経済の悪化も懸念される。不景気は長期化すると思われる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「昨年よりかは改善していくとしたい。第6波も最小限の影響で留まることを願う」「コロナが終息すれば、新幹線の利用者が増え、安定に向かうと思われる」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「コロナ禍で様々な消費が落ち込み、輸送量も減少している。コロナが終息し、日常に戻るまでの辛抱である。」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「分譲宅地造成の工事額が割高になって利益減となっている」「新型コロナウイルスの長期化等による収入の減少、原油高騰、物価高騰などの経済情勢から、宅地販売においては買い控えのムードがある。売買の案件が全くないわけではないが、停滞気味である」「相続に関する相談が増えた。相続の話し合いがうまくいかず、物件（土地、建物）が動かさない場合も多い」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…総じて過当競争に陥っているという声が多かった。「過当競争に陥っている」「支援先である中小零細企業をみると、飲食店は時間短縮要請により協力金が支給され、やりくりをしている状況。製造、建築関係では、資材不足や資材価格の高騰等の影響で予定通りの業績回復には至っていない。今後、あらゆる物の価格が上昇する事により、時間差はあるが我々士業にも影響は大きいと予想している」「中小企業の業績が厳しくなっていく中、本当に役に立つサービス（支援）がされているかどうか問われていると思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「ウクライナ情勢により今後世界にどのような変化が起きるか不透明である。ガソリン価格は上昇し、金利も不透明である。構造的変化は避けられず、政府がどのような対策を講じるか、ウクライナ情勢、コロナの状況を見ながら、社会の変化の先を見据えながら行動しなければならない」とのコメントが寄せられた。

『旅館・ホテル・旅行業』…総じてコロナの早期終息を求める声が多かった。「旅館業はコロナで全く見通しが立たない。国の補助金を利用し大規模リニューアルをした事で違った利用方法が生まれそうだ」「旅館部門に対し菓子部門は今期伸びている。原材料価格が高騰

し人件費が上がっている為、4月より価格の見直しを行う。旅館を縮小し、菓子部門を拡大して全体の利益を増やしていく」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「全く見通しが立たない状況である。11~4月までの仕事も全てキャンセルとなり、収入がゼロとなった。営業で訪問しても叱られるだけで、前が見えない状況である。もっと大きな支援をお願いしたい」とのコメントが寄せられた。

『冠婚葬祭』…「まん延防止等重点措置が解除されて、人の出足が上向き売上増加に繋がる可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「まん延防止等重点措置により、求人の需要が激減した」「心理不安により人流抑制があり、求人需要の低迷は続く見込みである」とのコメントが寄せられた。

『介護』…「需要はあるが、人件費が上がっている。引き続き人件費が高騰し利益を圧迫するだろう」とのコメントが寄せられた。

『広告デザイン』…「コロナ禍で見通しがつかず、積極的事業転換の方向性が見定められない。新たな事業展開を見出す必要性があり、今まで通りの業態では好転は厳しい」とのコメントが寄せられた。

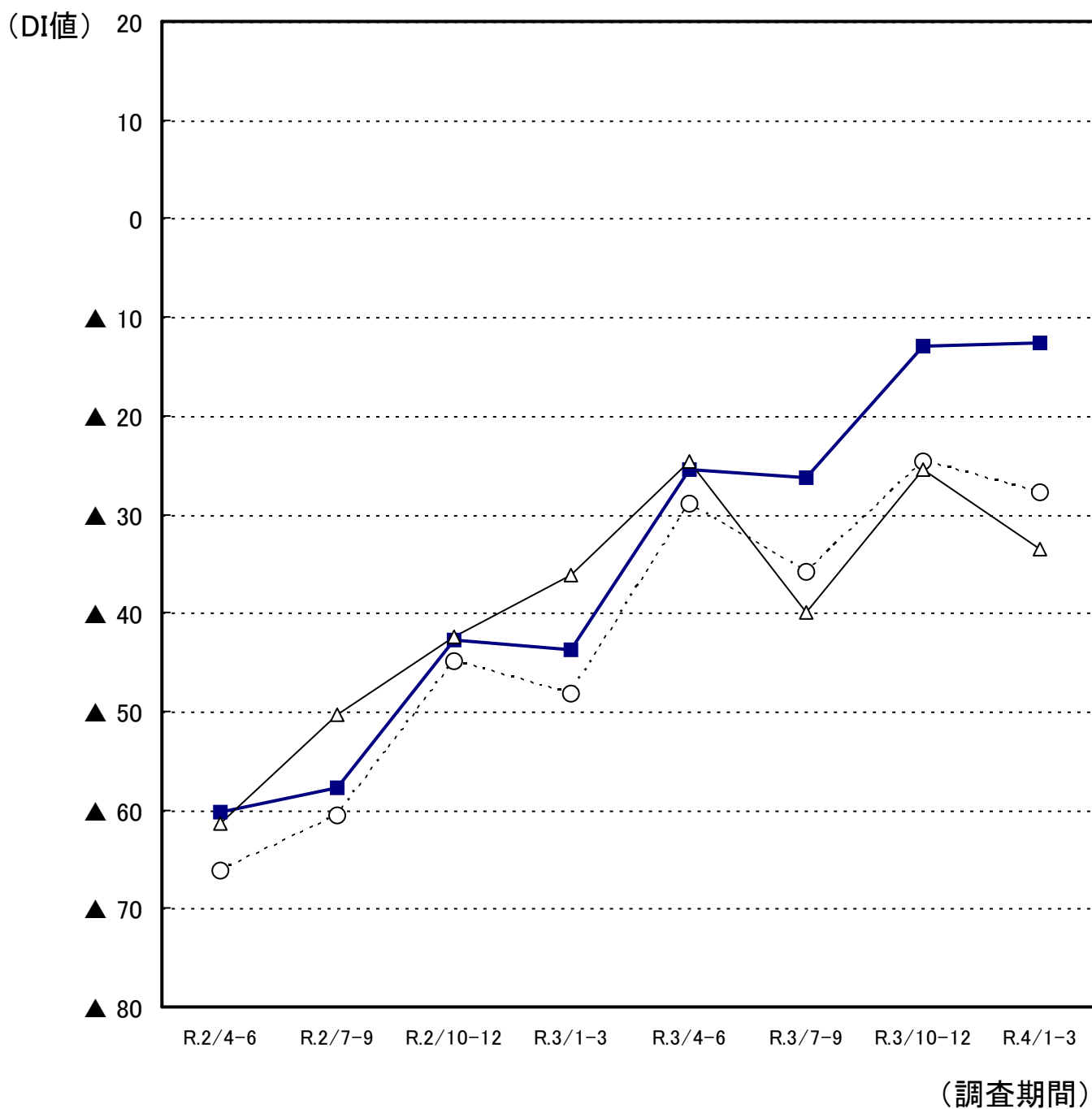
『クリーニング』…「コロナ感染拡大により売上が落ち込み、現在もそのまま推移している。抗菌や殺菌サービスの事業に業態をシフトした事で現況を維持している。コロナが終息したとき、抗菌や殺菌に対し、消費者の関心の程度により今後の売上が左右される」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「田子浦港周辺の県有地が一般入札で動いている。物流業界では注目されているようであり、今後の地域経済のプラスになることを期待している」「新々富士川橋が“富士かりがね橋”と名づけられた。令和5年度中の開通に向けて、工事が着々と進んでいる。関連する市道の工事も進んでいる。開通後は1日あたり13,000台の交通量になることが予測されている。歩行者、自転車に対する安全対策が急がれる」「ICTなどデジタル投資を積極的に行っているが、地元業者が無くて残念。せつかくなれば地元業者と取引したい」「4月に延期になったエキキタテラス、かなり楽しみにしている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	3.4	41.4	55.2	▲51.8	上昇
売上高	6.9	37.9	55.2	▲48.3	上昇
採算	3.4	34.5	62.1	▲58.7	上昇

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

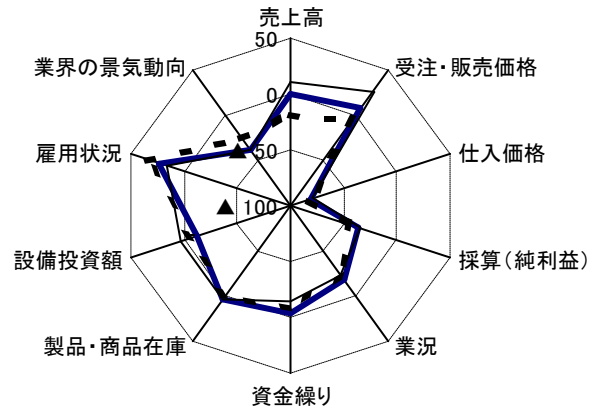


レーダーチャート

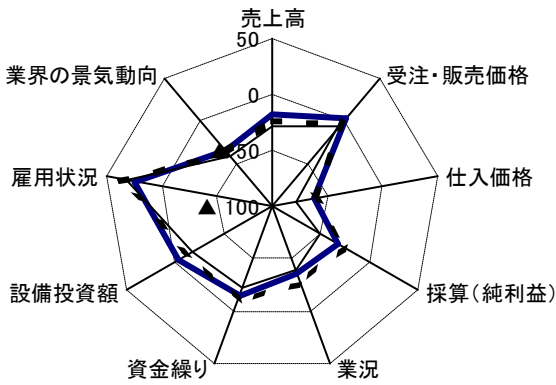
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

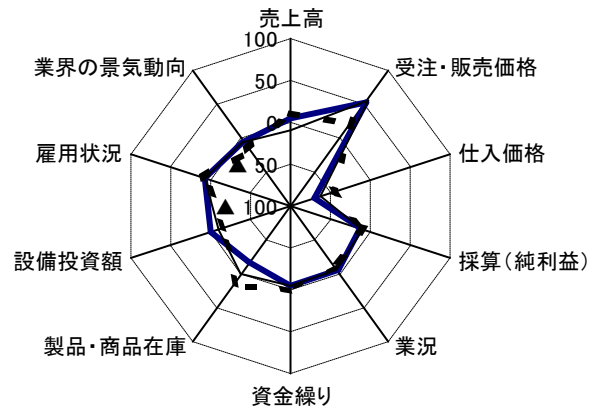
【製造業】



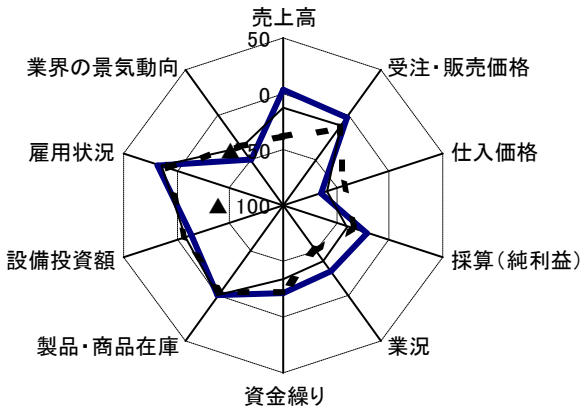
【建設業】



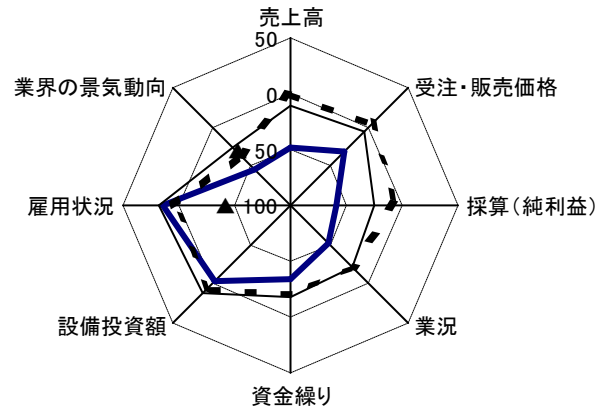
【卸売業】



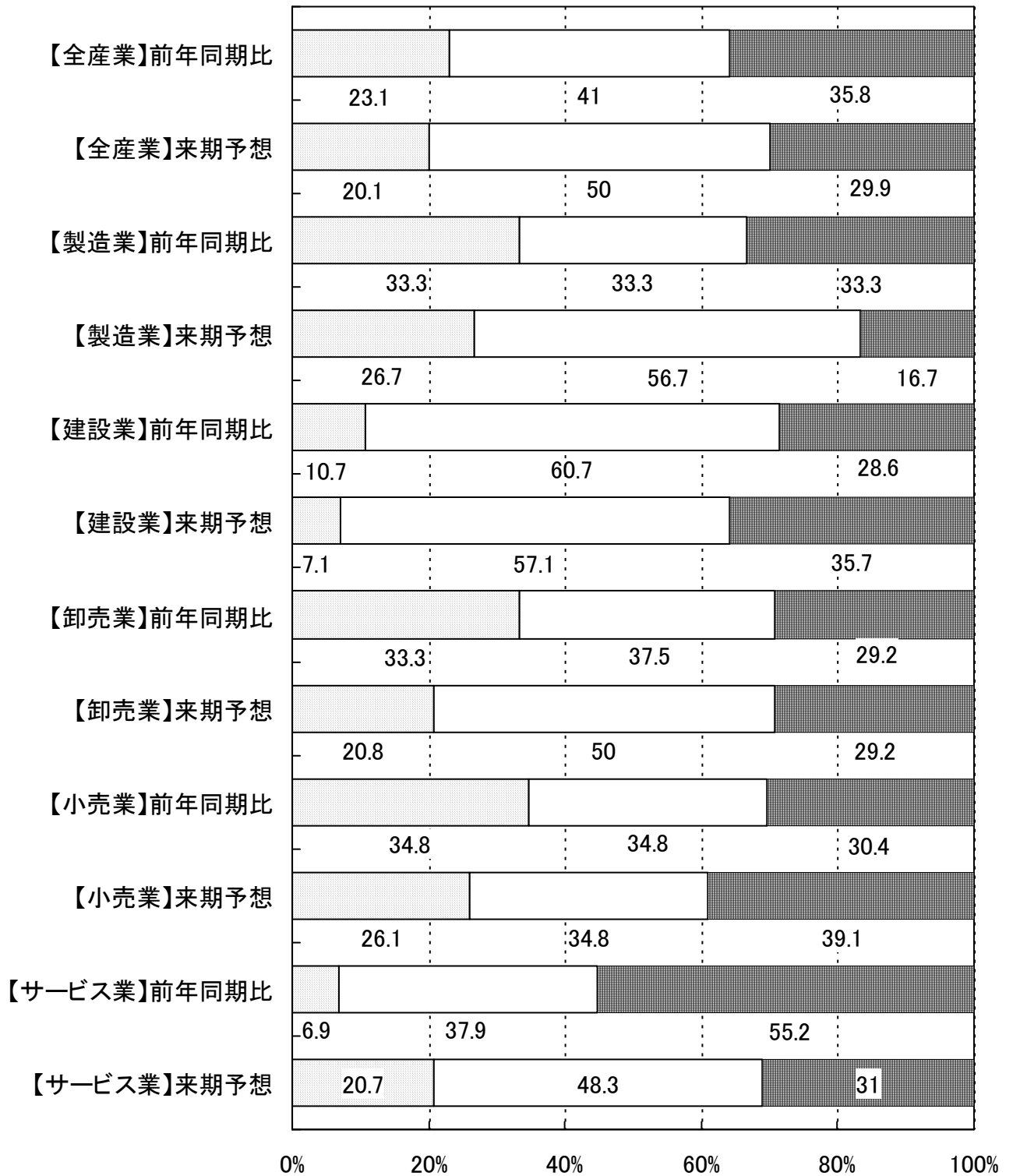
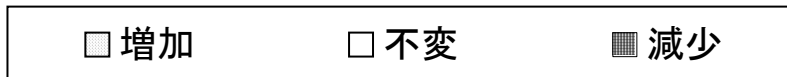
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産 業 別	上 位 回 答 項 目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 売上、利益減による資金圧迫</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 売上、利益減による資金圧迫／人員不足</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫／設備老朽化</p> <p>その他 その他の需要の低迷／販売価格値上げ難／人材不足</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 人件費高騰／設備老朽化</p>

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2022年3月24日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）県内の景気は、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けつつも、基調としては持ち直している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は持ち直している。個人消費は、一部に感染拡大の影響がみられつつも、全体として持ち直している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。

こうしたもとで、企業の生産は、足踏み状態にある。雇用・所得環境をみると、労働需給は改善傾向にあるが、全体としては引き続き厳しい状態にある。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 財消費は堅調ながら、一部品目における供給制約の影響や、飲食・宿泊等のサービス消費における下押し圧力の強まりから、持ち直しが一服している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、持ち直しが一服している。コンビニエンスストア売上高は、弱めの動きとなっている。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、減少している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：22/1月45.7% → 2月▲57.8%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 持ち直している。
（短観・設備投資額：20年度計画▲10.8% → 21年度計画10.5%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 横ばい圏内の動きとなっている。
（新設住宅着工戸数前年比：21/12月▲3.8% → 22/1月21.9%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（輸出額前年比：21/12月▲5.3% → 22/1月6.3%〈速報値〉）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 足踏み状態にある。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：21/11月3.0%→12月▲2.5%<速報値>)

自動車・同部品は、足踏み状態にある。二輪車・同部品は持ち直している。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、緩やかに持ち直している。化学は、弱めの動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、増加している。紙・パルプは、一部に弱さがあるものの、持ち直しており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善傾向にある。(→)

雇用者所得：悪化している。(→)

(有効求人倍率 季節調整値：21/12月1.14倍→22/1月1.18倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比22/1月▲0.1%→2月0.4%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。

(22/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(7件<前年比：▲46.1%>)
負債総額(7億円<同：▲76.3%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：21/12月末+2.9%→22/1月末+2.3%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：21/12月末▲1.6%→22/1月末▲1.8%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：21/12月1.373%→22/1月1.370%)

以 上